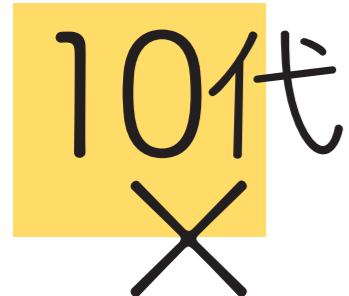


最新生理グッズに触れる



Z世代のための 生理フェス開催

2022.8.21

8月21日、13~18歳の生理のある人を対象に「Z世代のための生理フェス」を開催しました。

3人のゲストを招いて「聞く・知る・触る」の3部構成にした講座は、申し込みの反響から保護者も参加できるようにしたところ、大人世代からも好評をいただきました。また、高校生・大学生・社会人のインナーシップも参加し、講座の準備や、第1部のワークショップのファシリテーターとして活躍しました。



03 第3部 触る! 生理グッズ

●講師 ●高橋クロエさん
アパレルPR、フェムテックサイトディレクター

第3部では参加者が実際に最新の生理グッズを手に取ってみました。講師は吸水ショーツなどフェムケアグッズを開発している高橋クロエさんです。「生理用品がたくさんあることを知つてもらいたい」という言葉の通り、吸水ショーツをはじめとした



25種類の生理用品・ケアグッズが会場に並べられました。最初に人が集まつたのは吸水ショーツのコーナーで、Z世代の参加者が色やサイズ、触り心地を確認する様子が見られました。保護者は使つたことのない生理グッズを手に取る方が多く、月経



01 第1部 聞く! 身体のコト

●講師 ●滝和子さん
静岡市出前講座「豊かなセクシュアリティ」講師
NPO法人バディプロジェクト代表



第1部はワークショップです。自己紹介で緊張をほぐした後、生理に関する3つのテーマ「ため息出ちゃうこと」「私の対処法」「みんな、教えて」をグループで話し合いました。最初はどう話せばいいのか手探りだった参加者も、話し始めると生理の悩みを打ち明ける姿や、ほかの人の対処法を聞いてうなづく姿が見られました。保護者グループでは経験からくる対策や子どもの生理について大盛り上がり! 「学校

によって生理の呼び方が異なる」という興味深い報告も聞くことができました。生理について、みんなと一緒に話すことで、他の人の生理についての考え方・過ごし方を知り、自分の生理をじっくり考えるきっかけになったのではないかでしょうか。



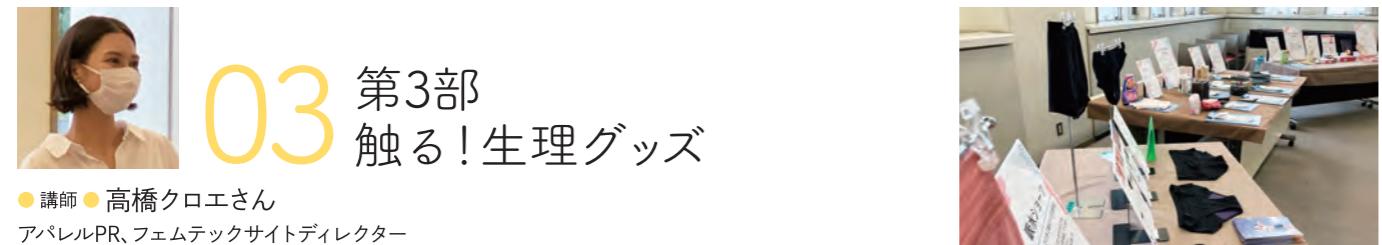
02 第2部 知る! 生理のコト

●講師 ●鈴木りゆかさん
「#みんなの生理」団体メンバー



第2部は講演です。講師の鈴木りゆかさんが所属する団体「#みんなの生理」の活動内容の紹介、学校ではどんな場面が「生理による機会損失」となるのか、なぜ生理がタブー視されているのか等、わかりやすく話していただきました。鈴木さんは高校生の時に留学先の同級生が生理についてオープンに話す様子に驚き、帰国後、日本では生理について話題にすることが難しい現状に疑問を抱きました。そこから、

現在の団体で活動するようになったという経緯を語られ、「あなたが感じる個人的なモヤモヤが社会を大きく変えるチカラになる。自分が抱く疑問や感受性を大事にしよう。」と参加者へ熱いメッセージを送りました。※「生理の貧困」について詳しくは右頁をご覧ください。



カップのやわらかさを確かめ、使い心地を質問する姿も。後半の質疑応答では参加者が「吸水ショーツのお手入れ方法は?」「外出時の月経カップの交換は?」等の質問があり、最新生理グッズへの関心の高さがうかがえました。

生理の貧困は「個人で対処できない社会全体のデザインの問題」

鈴木りゆかさんの講演から

内閣府では「生理の貧困」を「経済的な理由で生理用品を購入できない女性や女の子がいる」としていますが、「生理の貧困」は金銭だけではなく、生理をめぐる様々な問題を内包しています。日本に限らず、世界中の生理を経験する人が直面している事態です。

#みんなの生理では日本の若者の生理に関するアンケート調査を実施しました。生理の貧困の現状について、経済的理由で「生理用品の入手に苦労した」等の回答もあり、生理を衛生的に過ごすための環境が整っているとは言い難いです。生理による機会損失の問題もあります。生理が理由で「学校を欠席・遅刻・早退した」等の経験のある人が一定数いました。

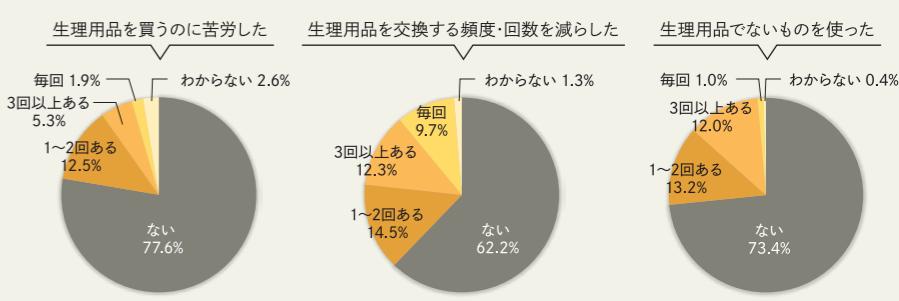
そもそも、学校や社会の枠組みは健康な生物学的男性を前提に作られているため、

生理のある体は想定されていません。加えて、生理自体がタブー視されることも踏まると、生理の貧困は、個人で対処できない社会全体のデザインの問題と言えます。

生理用品の配布では「だれもが・いつでも・どこでも・だれかに言わなくても」を求めます。そして、一人ひとりが、できることとして3点が挙げられます。

●生理用品の入手状況に関する質問●

過去1年に経済的理由で



「日本の若者の生理に関するアンケート調査」#みんなの生理(2021)より

講座終了レポート

2/25

これからの時代に必要な性教育
(オンライン開催)



ベストセラー書籍『これからの男の子たちへ「男らしさ」から自由になるレッスン』の著者であり、2人の男の子の母でもある弁護士の太田啓子さんから、男の子らしさ・女の子らしさにとらわれない子育てと、これからの時代に必要な性教育について話していただきました。

感想 「『性教育は人間教育』という考え方方が素晴らしい」「大人の意識が変わらないと子どもの意識(未来)も変わらないと思った」

5/27

子育てママの
リフレッシュヨガ



1~2歳の子を持つ母親、0歳児の親子を対象にしたヨガ講座を開催しました。自分のことは後回しになりがちなお母さん方が、ヨガ講師の斎藤美由記さん指導のもと、心と体をほぐすヨガを50分間体験しました。その後、参加者同士で日々の困りごとなどについて話しました。本講座は今年度計6回開催します。

感想 「心と体を整える本当に幸せな時間だった」「皆さんとのお話は楽しくてエネルギーになった」

6/24

赤ちゃんと一緒に
リフレッシュヨガ

7/9

自由に楽しむ
コーヒー&心地よい生き方



「自宅で美味しいコーヒーを楽しみたい」「新しい趣味を見つけたい」。そんな男性を対象に、市内を拠点に全国で人気を誇るコーヒー豆の専門店の松葉正和さんがコーヒーの淹れ方を、静岡県立大学教授の大塚協太先生がSDGs(目標5ジェンダー平等の実現)をテーマに、男性にとっての心地よい生き方を解説しました。

感想 「コーヒーに興味があり参加したが、ジェンダー平等の話もよかったです」

SDGs(持続可能な開発目標)について、テレビや新聞などでも頻繁に取り上げられるようになった昨今。5つ目の目標である「ジェンダー平等」は、なぜか、「環境問題」や「貧困問題」に比べ、メディアで取り上げられる機会が少ないようです。それは、情報を選択し、報道するメディア側の問題ともいえるでしょう。

情報の受け取り手である視聴者や読者は令和の時代を生きています。そうだというのに、まだまだテレビの中では「夫」のことを「ご主人」とい、夫婦が紹介される番組では、夫はフルネーム、妻は名前のみ等、時代錯誤の表現が続いている。そして、情報として必要な場面でも、わざわざ「女性初」という冠をつけて報道する人がいて、また、その見出しに食いついてしまう人がいる。どちらも、ジェンダー平等意識に欠けるメディアを作っている一人といえます。

「女子アナ」や「女医」、「美人すぎる〇〇」…これら言葉に違和感を持つことからはじめましょう。

最優秀賞
高校の部
好きな人
たまたま自分と
同じ性
(鶏むねささみ肉)

2018年、ローマ教皇が同性愛者の男性に「(神が)あなたをそのようにつくられた」と声をかけ、肯定されたことが大きな話題となりました。それでも世の中には、いまだに同性愛を「受け入れられない」、「認められない」(←って…どれだけ上から目線!?)、それどころか、「矯正する」…などというトンデモない意見がありますが、誰かを好きになる、また愛することに性別は関係ないはずです。

ちなみに私自身はというと、性自認は女性で、恋愛対象は男性の「異性愛者」です。同性愛者の人もいれば、異性愛者の人もいる。また、性別関係なく恋をする人もいれば、恋をしない人もいる。それは努力して変えられるものではありませんし、そもそも、変える必要のないものです。

自分の気持ちに正直に生きる、正直に人を愛する、これほどステキなことってありませんよね!



6月15日～7月5日まで
1Fエントランスに展示した入選作品

あなたが選ぶ ジェンダー川柳 2022

2019年度から始めたジェンダー川柳の公募事業は、昨年度に高校の部を新設、4回目となる今年度も全国から1,517句の応募がありました。今年も入選作品30句を選んだあと、一般投票に選考委員長の露の団姫さんの票を加え、最優秀賞と優秀賞を決定しました。優秀作品と露の団姫さんの講評を紹介します。



露の団姫さん

優秀賞
一般の部
「俺は無理」
私も育児は
初めてよ
(オオルリ)

子育てに関して、「男性が無理」なことは、「妊娠」と「出産」、そして「母乳」のみです。それ以外の、ミルクやおむつ替え、離乳食やお風呂、寝かしつけは、性別関係なくできるはずですよ☆

最優秀賞
一般の部
会議室
見渡す限り
おじさんだ
(ひろぽん)

これは家父長制度の名残ともいえるでしょう。無意識のうちに書いてしまうのかもしれません、その無意識が、次世代へ引き継がれてしまう可能性があることを意識しなければなりません。

これまでの最優秀賞

- 2019年度最優秀賞
「飯まだか」私も帰ったばかりなの(新米)
- 2020年度最優秀賞
上司出せ! 出たら今度は男出せ?(休鶏)
- 2021年度最優秀賞【一般の部】
別姓でなくなりません 家族愛(サク)
- 2021年度最優秀賞【高校の部】
「手伝うよ」家事もあなたの仕事です
(すとろべりー)



探究学習で 高校生が 女性会館とつながる

2年間の試行錯誤で見えてきた女性会館の役割

女性会館では、2016年度から、県内大学生のジェンダー関連の卒論研究に協力しようと、個別のアンケートの協力やインタビュー対象者の紹介をしたり、卒論発表会を開いたりしていました。2年前、高校生の探究学習のコーディネートをしているNPOからの依頼で「ジェンダー」に関わるテーマに取り組むいくつかのグループのインタビュー調査に協力しました。しかし、知識や情報不足から課題が絞りきれていないと感じ、限られた時間の中でどのように関わるのが効果的か、私たちも試行錯誤していました。

そのような中、昨年はテーマ別フィールドワークで静岡市立高校の生徒47人を受

け入れることになり、「ジェンダー平等」に関する講話と簡単なワークを行うことになりました。わずか1時間でしたが、高校生が自分の身近なジェンダー問題に意識が向いたと手ごたえを得ました。探究学習の目的的第一段階である「主体的に課題を見つける」ことに近づくことができたのではないか。もちろん、その先の「解決するための情報の収集や整理、分析を進める能力を高めること」への協力も惜しません。

今年度は、フィールドワークとして女性会館を訪れる高校が増え、6月から8月にかけて、駿河総合高校、清水西高校、静岡雙葉高校、静岡東高校の計4校の生徒延べ106人に「ジェンダー平等」について話

をさせていただきました。9割の高校生が初めて女性会館を訪れたと回答しました。アンケートには「自分が思っていたよりも性別格差があることがわかった」や「ネットではわからない深刻な女性の問題を知ることができた」「女性会館を活用したい」などの声が寄せられました。



ジェンダーの視点で社会課題を考える

今年度から駿河総合高校では、2年生240人が「地域防災コミュニティプロジェクト」に取り組んでいます。「防災」という視点から地域や社会の課題を発見し、その解決のためにアクションを起こすことで、社会を1mm動かそうというプロジェクトです。「このプロジェクトを通じて、地域の課題や困りごとを自分ごととして捉え、『地域貢献』を行い、『コミュニティの醸成』を推進し、生徒の『市民性(シティズンシップ)』を育てたいと考えています」と話すのは学年主任の高木優子教諭です。全部で10あるテーマの中で「ジェンダー」を選んだ生徒は4人×10グループ。女性会館との関わりについては「生徒には、災害時に起きる問題など様々な事象をジェン

ダーの視点で考え、結果として、平時における社会のありかたを考えてほしいし、困った時にも勉強したい時にも利用できる女性会館の存在も知ってほしい」と期待を寄せてくださっています。

現在高校生たちは、「ジェンダー、男女理解のための話し合いの会開催」「女性向け防災用品の商品開発」など、グループごとに意欲的なアクションに取り組んでおり、12月には実施した結果やその効果について、最終発表を行う予定です。「失敗大歓迎で、見守っていきたい。試行錯誤しながら、社会的インパクトがある方法を考えてほしい」と学校の熱い思いも伝わってきます。



女性会館では毎年2月に「卒論・探究学習発表会」を開催。大学生と高校生が一緒にジェンダーに関する研究成果を発表します。今年は、多くのチームに発表していただけるのではないかと期待が膨らみます。今年度の発表会は2023年2月11日(祝)。聴講をご希望の方は1月10日(火)10時から申込順で受け付けます。

AICEL TOPICS

祝！開館30周年 女性会館の歩みと団体活動紹介展



開館30周年を記念し、6月15日～7月6日まで、2階ギャラリーにて女性会館の歩みと当会館に登録している男女共同参画団体から希望があった17団体の活動紹介の展示を行いました。期間中、田辺信宏市長が来場し、コロナ禍で活動が縮小しがちな男女共同参画団体へ心強いエールがあり、今後の活動の励みになりました。

また女性会館誕生までのストーリー動画に足を止める来場者からは「これまで尽力された女性たちの思いを引き継いでいきたい」と、うれしい言葉が寄せられました。

会場には女性会館へのメッセージコーナーも設けられ、「30周年おめでとう」のお祝いの言葉をはじめ「皆さん生き生きと活動している様子が分かった」「これからも出会いを大切に、活動のフィールドを広げていきたい」等、温かいメッセージをたくさんいただきました。

いつも裏方で支えてくださっている みなさんに感謝

女性会館が中央公民館との複合施設として誕生してから、今年で30年。「アイセル21」の愛称で親しまれており、毎日多くの方に利用されています。貸室の見学や視察に訪れた方がよく口にされるのが「築30年には見えないし、とてもきれいですね」という言葉です。それは施設管理と清掃を担っている皆さんの努力の結果に他なりません。そこで今回は、私たちの大切なパートナーである2つの会社のみなさんを紹介します。

イオンディライト株式会社のみなさんは施設管理を担っているプロフェッショナル集団。利用者の安全・安心・快適を作り出すため、日常の点検業務だけでなく、困ったことがあればすぐ駆けつけてくれます。職員からは「イオンさん」と呼ばれ、いつも頼りにされています。「窓が閉まらない」「電球が切れた」など日々のトラブルに快く対応してくれるのはもちろん、「こんな風にしたい」という私たちの要望に対して、どんな場合でも、できるだけ早く、最適な提案をしてくれる心強い存在です。



Special thanks

女性のためのキャリア相談 インターネット予約が可能に

昨年度から「女性のための就職・転職・キャリア相談」がインターネットで予約できるようになりました。

以前は電話予約のみでしたが、現在は電話とネット、どちらでも予約を取ることができます。またネット予約のページから相談時間の空き状況も確認することができますので、希望の時間帯を確認してからの予約が可能です。

キャリア相談では「やりたい仕事が見つからない」「転職したいけれど何から始めればいいかわからない」「働きたいけれどブランクがあって不安」「子育てと仕事の両立を悩んでいる」など、様々な悩みに寄り添い、一緒に解決を目指します。是非利用してみてくださいね。

静岡ビル保善株式会社のみなさんは清掃管理のベテラン集団。勤続20年になる宗野さんをリーダーに、女性3人と男性1人のチーム4人で貸室からトイレ、給湯室など、施設全体を日々清掃するほか、近年は清掃以外にもドアノブや手すりの消毒など、コロナの感染防止にも努めてくれています。



アイセル21を裏方で支えてくださるみなさん、いつもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いします。

詳細やご予約は女性会館HPか
右記QRコードにて確認ください。



講座のご案内

2022年12月

～
2023年3月

TEL 054-248-7330
HP <https://aicel21.jp>

申込先・問合先 静岡市女性会館 〒420-0865 静岡市葵区東草深町3-18

不登校の子どもの 今と未来を考える

長引くコロナ禍の影響もあり、かつてない数の子どもたちが不登校になっている今、「将来が心配」「どう接すればいいかわからない」「夫が忙しくて相談できない」など、悩みは尽きません。元高校教諭で、ひきこもりの子を持つ親の支援に取り組んでいる講師から、子どもとどう向き合うべきか伺います。

日 時 12月5日(月)13:30～15:30

対 象 不登校の子の母親 20人

講 師 乙倉恵子さん
(公認心理師・精神保健福祉士)

参加費 無料

申込み 11月1日(火)10:00から
電話、HPで(申込順)

夫の不機嫌は 私のせい?

「いつも夫の顔色をうかがっている」「夫からお前が悪いと言われる」「私さえがまんすればうまくいく?」など、夫との生活がしんどいと感じている女性にお勧めの講座です。女性問題専門カウンセラーの高山直子さんを講師に迎え、夫婦の関係性について学び、私らしく生きるヒントを探ります。

日 時 12月8日(木)9:45～11:45

対 象 女性 30人

講 師 高山直子さん(カウンセラー)

参加費 無料

託 児 要申込(1歳～未就園児)
子ども1人につき500円

申込み 11月7日(月)10:00から
電話、HPで(申込順)

映画「片袖の魚」 上映&シネマトーク

トランスジェンダーの女性が主人公の映画「片袖の魚」の上映と当事者でもある主演のイシヅカユウさんをゲストに、映画を通して感じたこと、見えてきたものを大切に、性のあり方にかかわらず、誰もがその人らしい生き方を選択できる社会に向けて、私たちができることを探ります。

日 時 1月27日(金)19:00～20:30

対 象 どなたでも 50人

会 場 静岡市産学交流センター

ゲスト イシヅカユウさん
(俳優・ファッションモデル)

聞 手 川口澄生さん
(静岡シネ・ギャラリー副支配人)

参加費 無料

申込み 12月7日(水)10:00から
電話、HPで(申込順)

私らしく働くための タイムマネジメント

仕事にも私生活にも大切なタイムマネジメント。ダイバーシティやワークライフバランスを学ぶ人生ゲーム「ライフ・スイッチ」を通して、同世代の女性と交流しながら時間の使い方について一緒に考えてみませんか?

日 時 1月28日(土)13:00～16:00

対 象 20～30代の女性 20人

講 師 跡部千慧さん(立教大学助教)

参加費 無料

託 児 要申込、6ヶ月～未就学児
子ども1人につき500円

申込み 1月12日(木)17:00までに
HPからどうぞ(多数抽選)

育休復帰 先輩ママに聞く 両立のヒント

間もなく始まる新生活。「限られた時間で両立はできるのか」と不安になることも。講座では育休復帰を経験したメンター(人生の先輩)から経験談を聞きます。参加者同士のトークタイムもあります。復職が「楽しみ」「何とかなりそう」になるヒントがつまった講座です。

日 時 2月21日(火)9:45～11:45

対 象 育休中の女性 12人

講 師 跡部千慧さん(立教大学助教)

参加費 無料

託 児 要申込、6ヶ月～未就学児
子ども1人につき500円

申込み 2月8日(水)17:00までに
HPからどうぞ(多数抽選)

国際女性デー 開館30周年記念講演会

国際女性デーと開館30周年を記念して、法政大学前総長である田中優子さんの講演会を開催。ジェンダー平等の実現を目指し、社会を変えていくために私たちにできることを考えます。



日 時 3月5日(日)13:30～15:30

対 象 どなたでも 150人

講 師 田中優子さん
(法政大学前総長・名誉教授)

参加費 無料

託 児 要申込(1歳～未就学児)
子ども1人につき500円

申込み 2月1日(水)10:00から
電話、HPで(申込順)

会場は、記載がない限り、女性会館(アイセル21)になります。